

テスト採点自動で○付け

愛教大、デジタル技術で共同研究

愛知教育大学と株式会社EdLogとの 共同実施に関する協定式



共同研究に関する覚書を取り交わした中川社長（左）と野田学長（右）が、愛知教育大学で

刈谷市の愛知教育大が教育支援システムの開発などを手がける「エドログ」（東京）と、児童生徒が受ける小テストや定期テストなどの採点にデジタル技術を活用する共同研究を始めた。採点の効率化で、多忙な教員の負担軽減に結び付くかどうかを検証する。

付属名古屋小学校、付属名古屋中学（ともに名古屋市中区）で、二〇二四年三月末まで実施する。筆記試験の答案をスキャナーでパソコンに取り込むと、特定の設問に対する子どもたちの解答がパソコン画面で一覧できる仕組み。A・Dの選択肢から正しい解答を一つ選んで記す問題の場合、子どもたちの書いたアルファベットがパソコン上に一覧で表示される。

教員の負担軽減検証 子どもの学習状況把握も調査

教諭が誤答をクリックすると答案に「×」が記される。解答をクリックしなければ、正答として自動で「○」が付き、「○付け作業」が不要になる。

記述式でも、解答が一覧表示。記述式の採点はこれまで、同じような解答が複数あった場合、得点を公平にするため、先に採点した答案を探し出して比較するなどしている。一覧できることで、簡単に見比べられるようになるという。合計点も自動集計され、教員が計算する手間がなくなる。

研究は九月から試行。本格開始を受けて同大で十三日に協定締結式があり、野田敦敬学長は「協力して未来の教育をつくってきたい」とあいさつした。従来の採点方法は手間暇のかかる一方で、子どもたちの学習状況を把握するのに役立つ利点があるとされる。エドログの中川哲社長は「研究には、学習状況の把握合いが低下するかを調べ、対応を考える狙いもある」と説明した。（諏訪慧）